

鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止総合支援事業の評価報告(目標年度:令和6年度)

県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

沖縄県における被害防止計画の数は、市町村が単独で作成した被害防止計画21個（主にうるま市以北の市町村と離島）と、複数の市町村が広域的に活動する協議会（本島南部地区、本島北部地区）による被害防止計画2個の合計23個である（令和7年6月現在）。そのうち目標年度を令和6年度に設定し、本交付金事業を実施しているのは、4市町村（宜野座村、金武町、竹富町、恩納村）である。沖縄本島南部地区7市町村はシロガシラによる露地野菜の被害防止対策が共通課題であるため、沖縄本島南部地区野生鳥獣被害対策協議会においてシロガシラを対象鳥獣とした被害防止計画を作成している。また北部地区9市町村においても、平成26年5月に「沖縄本島北部地区野生鳥獣被害対策協議会」を立ち上げ、ハシゴドラスによる農作物への被害軽減を目的に、被害防止計画を作成している。その他地域については、加害者や栽培作物が異なるため、市町村単独で被害防止計画を作成している。

2 事業効果の発現状況

地域の体制整備・被害防止効果・捕獲状況・人材育成状況・耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。
事業を実施している伊是村・市川村・北大村・石垣村においては、対象鳥類の捕獲許可権を委嘱を受け市・町村長の許可により、有害鳥獣の捕獲等を行った。獵友会を含めた鳥獣被害対策実施隊を設置し、銃器や箱わなによる駆除を行うなど、効率的な体制により速やかに有害捕獲活動に取り組んだ。また、担い手育成を兼ね狩猟免許取得等の人材育成、今後の被害防止に向けた取り組みも行った。石垣村は、鳥獣対策協議会では、ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組として、捕獲した鳥獣の加工処理等に関する研修会、販路拡大支援を行った。
沖縄本島の市町村域及び、いよしま海中域においては、イノシシによる農作物への被害が多く発生しており、被害が多いいよしまを中心とした侵入防止対策としてワイヤーメッシュ柵を整備した。被害防止の効果は大きく、受益は柵を中心に依然として被害が発生していることから、被害状況を確認し、引き続き、被害防止に有効な整備をしていく。併せて、イノシシを寄せ付けない対策（いよしまの残渣作物等の堆積処理）に取り組む必要がある。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害防止計画の目標の達成状況を記載する。

推進事業においては、恩納村・喜界島町対策協議会、宜野座村・鳥羽町被害防止対策協議会、金武町・鳥羽町被害防止対策協議会、竹富町・喜界島町対策協議会が、有害捕獲を中心に取り組んだ。宜野座村及び金武町においては、イノシシの侵入防止柵と一体的な有害捕獲活動を推進したことによって、目標を達成することができた。しかし、恩納村については、獣類の生息域の移動等によって、竹富町においては、実態把握の強化を実施して目標達成に成功した。金武町においては、これまで報告されてこなかった被害が顕在化したことによって、目標達成に成功した。

整備事業においては、宜野座村と竹富町の協議会が令和4年、5年、6年度にマイヤーメッシュによって整備した。恩納村の協議会は令和4年度、金武町の協議会は令和4年度、5年度にそれぞれ整備した。整備した被害防止柵の効果は大きく、受益地場については被害が無くなったりしたながら、未整備場は場を中心に依然として被害が発生しており、目標未達の要因の一つとなっている。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

石垣市 石垣市有害鳥獣 対策協議会	石垣市	R3	R3 推進事業 425,000円 ①有害捕獲 整備事業 4,449,706円 ・ワイヤーメッシュ柵 3,510m	令和6年度においては、島歓撲害防止総合支綱事業を活用して、ワイヤーメッシュ柵を1,400m整備し、同事業により有害鳥獣の侵入への侵入を物理的防護することができた。その効果は市民にも広がり事業導入希望者も増加している。しかし、パンナ公園(都市公園)の付近では、インシジによる農作物被害が多く発生し、恐らくパンナ公園内の鳥獣によるものだろうという仮説が立った。そこで、石垣市公園(都市公園)の付近では、インシジによる農作物被害が多いと想定され、パンナ公園付近農作物被害防止に着手した。今後も未だ手付かずである当該地域で重点的に捕獲活動を行うことによって、被害防止の効果を期待できる。	R3 100%	令和6年度捕獲頭数(カラ内け)頭数及 び達成率は、インシジ718頭(300頭18%)、パンナ 公園(都市公園)の付近では、インシジによる農作物被害 が多発し、恐らくパンナ公園内の鳥獣によるものだろう という仮説が立った。そこで、石垣市公園(都市公園) の付近では、インシジによる農作物被害防止に着手した。 今後も未だ手付かずである当該地域で重点的に捕獲活 動を行うことによって、被害防止の効果を期待できる。	R3 100%	令和6年度捕獲頭数(カラ内け)頭数及 び達成率は、インシジ718頭(300頭18%)、パンナ 公園(都市公園)の付近では、インシジによる農作物被害 が多発し、恐らくパンナ公園内の鳥獣によるものだろう という仮説が立った。そこで、石垣市公園(都市公園) の付近では、インシジによる農作物被害防止に着手した。 今後も未だ手付かずである当該地域で重点的に捕獲活 動を行うことによって、被害防止の効果を期待できる。					
		R4	ハシブ トガラ ス イン シ	R4 推進事業 406,700円 ①有害捕獲 ②ジビエ利用拡大に向けた取 り組み 整備事業 5,854,464円 ・ワイヤーメッシュ柵 4,608m	R4 100%	167千円 2,072千円 228千円 146千円 26千円 (計) 2,639千円	69千円 3,180千円 569千円 61千円 0千円 (計) 3,879千円	334% △114% △532% 332% 445% △88%	0.2ha 1.6ha 0.2ha 0.1ha 0.0ha (計) 2.1ha	0.0ha 1.8ha 0.1ha 0.0ha 0.0ha (計) 1.9ha	463% 46% 289% 368% 440% 126%	石垣市についても、カラス、ケジャク、カ ラスにおいて被害金額と被害面積とも 目標達成を大きく超えて達成できてい る。インシジについては、被害金額では カラス568頭(4,000頭18%)、キジ290羽 (1,500羽19%)、クマヤ431羽(700羽6%) が、目標達成を上回ったものの、被害面積では、 目標達成を達成されませんでした。また、キジ、グジャクに開拓してジビエとして 捕獲ができ、被害額の超過が期待されました。 カラスについては、ほぼ計画通りの 目標達成を達成されました。しかし、カラス は、目標達成を達成されませんでした。また、 カラスに開拓してジビエとして捕獲が可能 であるところのカラスの少なさ材と 目標達成できなかったが、捕獲頭数は計 画を上回りました。今後は、ワイヤーメッシュ 柵で侵入排出するカラスの捕獲効率を 高めを仕掛ける等、加害個体の捕獲効率を 高める工夫を施す。また、苗畠を市独自の 補助で増やすやワイヤーメッシュ柵未整備の 畠付近にいるインシジの捕獲数の増加に努 め、被害額削減を図る。 被害面積は年々減少することができてい るが、一方で、カラスは、年々かなりの 被害額が目標額の1,657,200円を上回り ており、開拓して農地を荒らすアリーリー が引き続き、駆除へ追いついています。 また、昨年度、同報告で私がお勧めしたように、被害の多い地域の 	
		R5	コウラ イキン イン クジヤ ク	R5 推進事業 431,384円 ①鳥獣被害 防止施設 (侵入防止 柵の設置) 整備事業 13,703,184円 ・ワイヤーメッシュ柵 10,128m	R5 100%								石垣市についても、カラス、ケジャク、カ ラスにおいて被害金額と被害面積とも 目標達成を大きく超えて達成できてい る。インシジについては、被害金額では カラス568頭(4,000頭18%)、キジ290羽 (1,500羽19%)、クマヤ431羽(700羽6%) が、目標達成を上回ったものの、被害面積では、 目標達成を達成されませんでした。また、キジ、グジャクに開拓してジビエとして 捕獲ができ、被害額の超過が期待されました。 カラスについては、ほぼ計画通りの 目標達成を達成されました。しかし、カラス は、目標達成を達成されませんでした。また、 カラスに開拓してジビエとして捕獲が可能 であるところのカラスの少なさ材と 目標達成できなかったが、捕獲頭数は計 画を上回りました。今後は、ワイヤーメッシュ 柵で侵入排出するカラスの捕獲効率を 高めを仕掛ける等、加害個体の捕獲効率を 高める工夫を施す。また、苗畠を市独自の 補助で増やすやワイヤーメッシュ柵未整備の 畠付近にいるインシジの捕獲数の増加に努 め、被害額削減を図る。 被害面積は年々減少することができてい るが、一方で、カラスは、年々かなりの 被害額が目標額の1,657,200円を上回り ており、開拓して農地を荒らすアリーリー が引き続き、駆除へ追いついています。 また、昨年度、同報告で私がお勧めしたように、被害の多い地域の
		R6	カモ	R6 推進事業 75,000円 ・有害捕獲 整備事業 14,421,000円 ・ワイヤーメッシュ柵11,400m	R6 100%								石垣市についても、カラス、ケジャク、カ ラスにおいて被害金額と被害面積とも 目標達成を大きく超えて達成できてい る。インシジについては、被害金額では カラス568頭(4,000頭18%)、キジ290羽 (1,500羽19%)、クマヤ431羽(700羽6%) が、目標達成を上回ったものの、被害面積では、 目標達成を達成されませんでした。また、キジ、グジャクに開拓してジビエとして 捕獲ができ、被害額の超過が期待されました。 カラスについては、ほぼ計画通りの 目標達成を達成されました。しかし、カラス は、目標達成を達成されませんでした。また、 カラスに開拓してジビエとして捕獲が可能 であるところのカラスの少なさ材と 目標達成できなかったが、捕獲頭数は計 画を上回りました。今後は、ワイヤーメッシュ 柵で侵入排出するカラスの捕獲効率を 高めを仕掛ける等、加害個体の捕獲効率を 高める工夫を施す。また、苗畠を市独自の 補助で増やすやワイヤーメッシュ柵未整備の 畠付近にいるインシジの捕獲数の増加に努 め、被害額削減を図る。 被害面積は年々減少することができ るが、一方で、カラスは、年々かなりの 被害額が目標額の1,657,200円を上回り ており、開拓して農地を荒らすアリーリー が引き続き、駆除へ追いついています。 また、昨年度、同報告で私がお勧めしたように、被害の多い地域の 高高いパンナアーブル等の被害者を目立 つ。そのため、インシジの生息域の移動 等によって被害地域も移動してしまうと、 たとえ局所的に効果の高い防止活動を 実施できたとしても、別の地域での被害 が増え、地域全体の被害範囲にその効 果が反映されてしまうリスクもある。特 に、苗畠を面積の大きい地域でも 造成していない、単位の高いインシジの 被害が高い割合を示しており、今後ともワ イヤーメッシュ柵の整備による対策が必要と される。

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸に明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に

5 都道府県による総合的評価

被害防止計画において令和6年度を目標年度に設定している市町村及び広域協議会のうち、鳥獣被害防止総合対策交付金を実施している竹富町有害鳥獣対策協議会、金武町鳥獣被害防止対策協議会、宜野座村鳥獣被害防止対策協議会、恩納村有害鳥獣対策協議会の4か所に、昨年度目標が未達成であった北大東村有害鳥獣対策推進協議会、石垣市有害鳥獣対策協議会を加え計6か所が評価対象であった。
恩納村有害鳥獣対策協議会、竹富町有害鳥獣対策協議会、石垣市有害鳥獣対策協議会、北大東村有害鳥獣対策推進協議会が目標達成に至らなかったことから、被害防止の活動内容を見直し、被害防止対策を推進していく必要がある。
令和4-6年度の間でみると沖縄県全体の被害金額は増加傾向がみられるが、より長期的視点で俯瞰すれば、平成24年度の2億1千万円をピークに徐々に減少し、近年では一定の増減を許す平衡状態にあるともいえる。令和6年度においては76,031千円であった。目標達成にはならなかった市町村があるものの、すべての地区において事業計画に基づいて競意取り組んでおり、特にイババニについては、目標と同等以上の捕獲率は維持できていたとみられる。しかし、被害額が増加してしまったことについては、捕獲頭数が不十分であるか、あるいは加害個体以外の捕獲が多かった可能性が考えられる。また、生息域の移動や被害実態の掘り起こしによる被害の顎化等の要因も大きいと推量される。ワイヤーメッシュ柵を整備されたほ場は高い確率で被害を防止できること、捕獲頭数自体は多くの市町村において計画と同等以上であることを考慮すれば、本事業によって一定の捕獲率は維持されたと定程度あつたと考えられるが、今後は、被害額を減少傾向へと転ずるために、鳥獣を集落に引き寄せる要因(農作物残渣や放生果樹等)除去の指導、適正な捕獲柵の実現(捕獲頭数・捕獲柵場所の見直し)、侵入防止柵の整備や維持管理体制の構築等、各地域の課題に即した対策の支援に努める必要がある。